

第2回審議会意見への対応方針

【資料1】

※基本構想では、具体的な事業の実施方法ではなく、考え方の方向性を掲載させていただきます。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
子育て・教育	中津川市教育大綱とのすり合わせが必要ではないか	目指す姿を文章化する際に、中津川市教育大綱「よりよいひとりだち中津川ビジョン」との整合性等を確認します。
	「少子化・人口減少のトレンドを反転させる」といった、今まで教育委員会で挙がっていない内容がある	この部分は少子化対策に関する内容になります。 目指す姿を文章化する際に、「教育」と「子育て」の項目を立てることとし、「子育て」の項目において趣旨を記載します。
	「結婚・妊娠・出産・子育ての希望が叶うまち」のように少子化問題に対応する政策を中心にしたい方がよい	「結婚・妊娠・出産・子育ての希望が叶う」の内容を「子育て」の項目に記載します。
	人口減少を受け入れるか受け入れないか、市のあるべき姿としてどちらを選択するか明確にする必要がある	重要な視点であると考えますが、「人口減少の中で生活を豊かにする」と「人口増加を目指す」は両立し得る考え、二者択一とせず、いずれの観点も記載します。
	「産まれ」という表現が気になる。「人口が増える」と、「たくましい子を育てる」は別の方がよいのではないか。	「たくましい子が育つ」と「結婚・出産・子育ての希望が叶う」をそのまま合わせたため、こうした表現となってしまいました。 「子を育てる」という言葉に上記の意味が含まれるものと考え、政策を「心身共にたくましい子を育てるまちづくり」に改めます。
	子育て・教育に関して、目指すべき姿が女性中心の記載に見えるが、結婚・妊娠・出産・子育てについては、男性も非常に重要な立場である。 結婚等が増えない理由には、若者の仕事や賃金などの将来の不安も考えられるため、市のあるべき姿に「安心して働けるまち」を入れてほしい	「働き方も含めた子育て支援」、「安心して働ける」という考え方について、「商工観光」の分野で反映します。
	「未来の人材が育つまち」とあるが、「人が育つまち」から「人を育てるまち」という意識が必要	「人を育てる」という意識を醸成する必要があると考え、政策を「心身共にたくましい子を育てるまちづくり」に改めます。
	地域の人が育て、市がそれに投資をしていくということをするべき、学校教育だけではなく、中津川全体で関わって人材を育てていくような、もっと広い分野での教育システムを作っていけたらと思う	「地域全体で人材を育てる」という考え方を反映します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
子育て・教育	「・不登校児童生徒が減少するとともに、個々の自己肯定感、自己有用感が高まっていくことで、」は不登校児童を否定すると捉えられかねないので削除したほうがよい。	当該箇所を削除します。
	人口減少への対応が市民から強く求められており、「人口減少を受け入れる」「人口減少が避けられない中で、できる範囲の支援を考える」では不十分で、総合的に人口減少対策に取り組む方針を伝える必要がある。	人口減少への対策を重点プロジェクトとして検討します。
健康・福祉	一人暮らしの高齢者が増えるにあたり、地域と専門職をつなぐコミュニティソーシャルワーカーを配置し、重層的な支援をしながら柔軟な相談ができる仕組みが必要	重層的支援の考え方について反映します。 ※重層的支援とは：介護、障害、子ども、生活困窮の各分野において実施している相談支援体制では対応が難しい、複合化・複雑化した支援ニーズに対応するため、「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する包括的な支援
	政策の目指す姿に「医療」という言葉はあるが、「介護」がないので、「介護」という言葉が必要	目指す姿に必要であると考え、「介護」という文言を反映します。
	政策の目指す姿に、医療職員を目指す学生を支援・育成し、地域医療を支える人材を確保する記述が必要	「人材の確保」などについて反映します。
	安心して医療が受けられるまちとあるが、坂下地区・恵北地区で明確に強みを作っていかなければならない	目指す姿の「安心して医療が受けられる」に含まれるものと考えます。 また、市全体の課題として、特定の地域に限定しないこととします。
	救急医療体制の維持について、今年度指令所が統合されてしまうが、その点が弱体化しないようにすべき	目指す姿の「安心して医療が受けられる」に含まれるものと考えます。
	政策の目指す姿への提案 ①安心して老後を暮らせるまち ②100年時代を楽しむまち ③リスタートのまち（高齢者になっても新しいことに挑戦できるという）意味です。	①「健康で安心して生活できる」という内容に含まれるものと考えます。 ②③「すべての人が生きがいを持って生活できる」という考え方を反映します。
	住民が必要な医療を適切な場所で受けられる仕組みを作る必要がある	「誰もが安心して医療を受けられる」という考え方を反映します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
共生・ 協働・ 定住	今後外国人の数が増えていくと思われる。誰もが（国籍問わず）活躍できるとあるが、その前に誰もが同じように住める環境を作っていくのが大事ではないか	「国籍問わず」という趣旨を目指す姿に反映し、居住環境については「基盤整備」の分野の中で「誰もが住みやすい居住環境」という内容を反映します。
	今後外国人の数が増加していく中で市の在り方の方向付けをする必要がある	「共生社会」の考え方を示す中で反映します。
	地域内に居住している外国の方と交流したいが、雇用している事業所と連絡が取れないということがある。企業においても共生の数字の目標、企画などがあるとよい	「多文化の交流活動を推進」という考え方を反映します。
	外国人の数や人口が増えていく中で、国際感覚・リーダーシップを持つグローバルな人材育成を目指すのならば、もっと地域に住む外国人と地域の人達の交流を増やす方に進んでいくのが良いのではないか	「国際的な交流の充実」といった考え方を反映します。
	政策の目指す姿への提案 ①人と自然が調和し、共に創る持続可能なまち ②支え合い、共に歩む安心のまち ③多様な文化が共に育み、未来へつなぐまち ④世界とつながり、人が輝く共生のまち ⑤地域と国際社会が協働し、安心して暮らせるまち	①「人と自然が調和する」「持続可能」という考え方を反映します。 ②「人と人が支え合う」という考え方を反映します。 ③⑤「多様な文化が共生する地域」という考え方を反映します。 ④「国際交流」という考え方を反映します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
生涯学習・ 文化・ スポーツ	この分野に限らず、課題の解決を政策に反映しきれていない箇所がある。基礎調査によって明らかになった課題を政策か目指すべき姿に入れたほうがよい	挙げられた課題に対応する内容について、目指す姿に反映します。
	政策の目指す姿への提案 ①生涯学習で、元気で賑やかなまち ②読書で広がる！子供の未来が輝くまち ③いつでも学べる、成長できるまち ④歴史と文化が身近にあるまち ⑤伝統芸能を守り、未来へつなぐまち ⑥アートが息づく、魅力的なまち ⑦スポーツでカロリー消費のまち	①②③「生涯学習」の項目に含まれるものと考えます。 ④⑤⑥「文化」の項目に含まれるものと考えます。 ⑦「スポーツ」の項目に含まれるものと考えます。
	市の地域資源や魅力を「外からの視点」だけでなく、「地元の人々にとっての価値」として再認識し誇りを持てる形で活かしていく事が重要	「地域資源への認識と誇りの醸成」という考え方を反映します。
	文化においては、歴史や伝統文化を守るだけでなく、新たな表現や世代を超えた交流の創出が大切。若い世代が関わりやすい仕組みを取り入れ、継承と発展を両立させることが必要	「文化の継承と発展」という考え方を反映します。
	スポーツの分野で、既存の施設や自然環境を活かし、健康づくりと結びつけた取り組みを強化し、地域の人々が身近に運動を楽しめる環境を整える事が必要	「スポーツによる健康の推進」という考え方を反映します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
防災・防犯	消防団員の年々減少が止まらない。消防団でも施策を行うが、市でも加入を増やすような施策がほしい。	「人材の確保」という考え方を、包括的に反映します。
	災害に強い安全なまちを目指し、次の点に取り組む必要がある ①地震・豪雨・土砂災害などへの備えを強化し、減災・防災の意識を地域全体で高める。 ②防災施設や避難所の整備を進め、誰もが迅速かつ安全に避難できる環境を確保する。 ③自治会・自主防災組織の充実を図り、地域の防災力を向上。	①「災害対策の強化」と「防災意識の醸成」という考え方を反映します。 ②③「防災・減災」の項目に含まれるものと考えます。
	消防・救急が整い安心して暮らせるまちを目指し、次の点に取り組む必要がある ①消防団や防災機関と連携し、迅速な救急・消防対応ができる体制を確立する。 ②高齢者や障がい者など、要配慮者が安心して暮らせる支援体制を強化する。 ③応急手当や防災訓練の普及を進め、住民の防災スキル向上を支援する。	①②「消防および救急体制の充実」という内容に含まれるものと考えます。 ③「防災意識の醸成」という考え方を反映します。
	支え合い安全で安心して暮らせるまちを目指し、次の点に取り組む必要がある ①地域の防犯パトロールや見守り活動を強化し、犯罪の抑止力を向上する。 ②防犯カメラの設置推進や街頭整備で、犯罪の発生を防ぐ環境づくり。 ③子どもや高齢者が安心して暮らせる地域コミュニティの形成を支援する。	①「防犯に地域全体で取り組む」という考え方を反映します。 ②「安心して暮らせる」という考え方を反映します。 ③「協働」の項目に含まれるものと考えます。
	地域単位で災害時に迅速に対応できる環境（防災倉庫）の整備が必要	「防災・減災」の項目に含まれるものと考えます。
	消防団員の確保・育成と環境の整備を推進する必要がある	「消防に係る人材の確保」という考え方を反映します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
環境	自然を守ることにについて、汗を流す人を育てていくシステムが必要	「環境に関する市民の育成」という観点を反映します。
	小水力発電など潜在的なエネルギーが豊富な地域なので、自然エネルギーについてもう少し記載がほしい	「自然エネルギー」について記述します。
	「脱炭素」や「カーボンニュートラル」、数値目標等の文言が目指すべき姿の場所に見られないので記載してほしい	「2050年」「ゼロカーボンシティ」などについて反映します。
	今のごみ処理はごみ袋になんでも入れれば回収日に回収されるが、これからのことを考えると、住民の負担が増えたとしても、もう少し違う施策していかないと、立ち行かなくなるのではないか	目指す姿の中で「循環型の地域づくり」の考え方を包括的に反映します。
商工観光	「産業」という区分は幅広すぎるのではないか。自然や文化と工場等での生産の両方を取り入れているので軸がぶれている。あるべき姿や政策も広すぎると、行政ができるものだけを採用する危険性がある	政策の分野を「商工観光」と「農林畜産」に分割します。 商工観光分野の政策を「商工業や観光業などが活発で、活気があるまちづくり」 農林畜産分野の政策を「恵まれた資源を活用し、さまざまな産業が活発なまちづくり」とします。
	街中の商業施設、市民が憩う場所・遊ぶ場所が欠けている。リニアの開通を目指してなんらかの施策を考えていくべき	「中心市街地の活性化」といった観点から目指す姿に反映します。
	市長が目指す宿場町構想も一つの大きな商業・産業施策になると思うので、これも見据えた上で追加していくのもよい	「中心市街地の活性化」といった観点から目指す姿に反映します。（基本計画の中で重点施策として検討を行っていきます）
	政策案の冒頭に「自然や文化を活用」とあるが、重きを置きすぎているので文言を外した方がよい。強みに大規模な製造業があるのに、市が限定した産業分野に誘導しているように見える	政策の「自然や文化を活用」を削除し、「商工観光」の分野として政策を「商工業や観光業などが活発で、活気があるまちづくり」とします。
	あるべき姿の中でアントレプレナー（起業家、新たに事業を起こす人）への支援を明記した方がよい	商工業の発展の観点から、「起業」に関する記述を追加します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
商工観光	若者が帰ってくるための受け皿として知的労働ができる企業を誘致、確立することが必要	「若者が求める業種」などを目指す姿に反映します。
	「遊ぶ場所が不足している」という意見があるが、自然などで遊ぶ方法を工夫して考えられる人を育てていかないといけない	環境の分野の目指す姿において「環境教育」として包括させます。
	商業の持続的な発展を目指すのであれば、中山間地域の商業インフラに対する施策を具体的に示してほしい	目指す姿を明文化する際に例示します。
	観光については産業化していこうという段階であり、観光協会・会議所・商工会と足並みをそろえて、政策の目指すべき姿を作してほしい	目指す姿に「観光産業の発展」という内容を記載し、担当部署において進め方などを検討します。
	観光に関しては、コロナ禍以前より観光客が増加している。日本各地でオーバーツーリズムが問題となっているので、中津川市も観光客の分散を市の施策等をお願いしたい	「周遊観光」や「地域住民との調和」などの内容を目指す姿に追加することを検討・反映します。
農林畜産	農業人口は減り続けている。目指す姿のところで持続可能な農業のまちと書いてあるが、この言葉だけで具体的な人材育成等の施策等が書かれていない	「担い手の育成」などについて目指す姿に例示・記載します。
	この地域は林業が盛んだが、今は林業だけでなく、林業を介したさまざまな取り組みが出てきている。そういった環境を利用して、もっと市がアピールをして自然と遊ぶ方法を考えられる人材を育成してほしい	「森林資源の多面的活用」などを目指す姿に反映します。
	森林空間の利用について何か文言を入れてほしい	「森林空間」の活用について考え方を反映します。
	木造建築はCO2の排出を50年間固定し、環境にも優しいので、市の公共建築物に積極的な木材の使用や木造建築にする施策がほしい	「木材利用の拡大」について目指す姿に反映します。
	栗が温暖化の影響で例年の半分程度の収穫であった。栗は中津川市の特産品であるので、産業や観光の支援として、市もやっていくべきではないか	「農業支援」について目指す姿に反映します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
基盤整備	バスの運行に関して、最大の課題は乗務員の確保である。乗務員の高齢化が進んでおり、市としても公共交通の確保・人材確保という面で施策を行ってほしい	「人材の確保」について目指す姿に反映します。
	中山間地域や高齢化が進む地域の課題を踏まえ、住民一人ひとりが安心して暮らせる持続可能な基盤整備を図るため、次の取組が必要 1. 交通・道路整備：生活道路と公共交通の充実（安全・快適な移動環境の確保） 2. 防災・減災対策：災害に強い地域づくり（災害に強い地域づくりの推進） 3. 上下水道・エネルギーインフラ（持続可能なライフラインの確保） 4. 住環境の向上（快適で魅力的な住環境の形成） 5. デジタルICTの活用：行政・防災のデジタル化	①「交通」「公共交通」の項目に含まれるものと考えます。 ②「防災・減災」の項目に含まれるものと考えます。 ③「持続可能なライフラインの確保」という考え方を反映します。 ④「住みやすい居住環境」という考え方を反映します。 ⑤「行政運営」の項目に含まれるものと考えます。
行政運営	中津川市内の15地区は、このまま10年先も運営可能なのか。区長や民生委員のなり手がいない中で、15地区の維持が本当に必要なのか検討をする必要がある	「地域の在り方の検討」について取り組みの内容に反映します。
	合併して一つの中津川市になってから20年経過している。職員は、自分が生まれ育った地域以外の場所では、攻めた施策は遂行できないのではないか。攻めた施策ができる環境を皆で整えていく必要がある	「職員の能力を生かす」ことについて取り組みの内容に反映します。
	総合計画というのは、将来を作る戦略だと思うが、戦略をチューニングしていく中で市役所の組織もそれに対応して変わるべきだと思う。マーケティング課や人材育成課等、時代の様相に合わせた組織づくりが必要	「市民ニーズに応える体制」などについて目指す姿に反映します。

分野	第2回審議会の主な意見	対応
その他	次期総合計画においてではなく、次の事項について現時点から意識して欲しい。 ①情報発信（広報活動）をITの力を使いながら積極的に行ってほしい ②情報発信が発信のみの一方的なものになっている。しかるべき人にしかるべきタイミングでしかるべき内容を伝え、一方的に伝えるだけでなく、取り組みに愛着を持ってもらうことが必要。制度の作成だけでなくその伝え方にも注力する必要がある。	いただいたご意見を庁内で共有し、改善できるよう取り組むと共に、次期総合計画において次のとおり反映します。 ①「積極的な情報発信」と「DX化の推進」という考え方を反映します。 ②「市民参加型の行政運営」という考え方を反映します。
	総合計画は総花的になりがちで優先順位が分からないことがある。重点プロジェクトを設けて進めて欲しい。	基本計画において重点施策を設定します。